

令和7年度 青森中央短期大学 幼児保育学科 小論文課題
一般選抜第2期入学試験問題

次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。

さて、読み聞かせをしている親子はまちがいなく、親子の絆がしっかりしていると感じ取れる、という話をしました。その原因を、ちょっと考えてみましょう。

読み聞かせについてお母さんやお父さんが情報交換をするインターネットサイトがあり、そこを調べてみると、「育児が楽しくなって、以前よりおだやかな気持ちでいられます」「心の安らぎが、子どもといっしょにもてるようになりました」「ゆったりした気持ちで、子育てができるようになりました」という書き込みが、たくさん見つかりました。

さらに、もっと直接的な「親子でのコミュニケーションが深まった」という書き込みも、たくさん見つかります。以前より、子どもとゆったり過ごせる、親子のふれあいが親密になった—まちがいなく読み聞かせの効用として、親子のコミュニケーションの深まりを実感されているのです。

(中略)

読み聞かせをして、子どもをよく見るようになる。
すると、ここが変わったと気づく。その瞬間、じょうずにほめてあげることができるようになる。
もちろん、ほめてもらったら子どもはうれしい。
つまり、お母さんはちゃんと見ていてくれたんだと思うでしょう。
お母さんは、わが子はこんなこともできる、いつもはしかってばかりいるけれど、よく見ればすごい、とわかって、「うれしい!!」。
そして、もしかして、次はこんなことをしてあげたら、こう成長するかもしれないと考えるようになり、またさらに、子どもをよく見るようになる。
子どもとのコミュニケーションが深まり、絆ができていくのです。

私はこれを、「読み聞かせの正のスパイラル」と名づけました。
スパイラルとは、らせん状の、あるいはうず巻き状の、という意味です。読み聞かせによるよい循環が、うずを巻くように次つぎと繰り返されて、よい方向に進んでいく、ということです。

子どもの変化に気づいて、どんどんほめてあげられるようになる—これは、読み聞かせがお母さんにもたらす、いちばん大きな変化なのではないでしょうか。と同時に、お母さん自身の喜びになり、さらに変化するきっかけになるのです。

タイミングよくほめられた子どもはうれしいし、「お母さんやお父さんは、こんなにも見てくれている」という思いがわいてきます。それが、さらなる子どもの変化へとつながっていく。そう思います。

そして、その繰り返しで親子のコミュニケーションを生み、やがて親子の強い絆へと結びついていくのです。読み聞かせをたくさんしている親子の、すごくよい関係は、きっとここから生まれるのです。

(泰羅雅登『読み聞かせは心の脳に届く 「ダメ」がわかって、やる気になる子に育てよう』くもん出版 2009, p.67-73 より抜粋)

設問1. 本文の内容を300字程度に要約しなさい。

設問2. 子どもにとっての読み聞かせの効果とはどのようなものか、上記の文章とあなた自身のこれまでの体験に基づいて、500字程度で述べなさい。